

【修学支援について】

3学科とも、学習の動機づけに焦点を合わせた学習の方法や授業科目の選択のためのガイダンスを、2年生には新学期初めに1日、1年生については入学式後に実施する2日間のオリエンテーションの中で、学生便覧や学習の手引き(シラバス)を用いて行っている。また、後期の授業開始前に教務ガイダンスを実施している。さらに、クラス担任制を設け、クラスアワーで指導・支援するとともに、教員は、週に1度、オフィスアワーを設け、修学支援の場を提供している。全学生がChromebookを携帯し、ポータルサイトに掲載している学生便覧や学習の手引(シラバス)等を、学生と教職員がいつでもアクセスできるようになっている。8月～9月にかけて、クラス担任と保護者が個人別に面談を行う保護者教育懇談会を実施しており、問題点や課題の共有化をはかり、適切な支援へつなげている。

音楽科では、各専攻コース別に入学手続き者の基礎学力を補い、学習意欲を促すための入学事前学習として、楽典とソルフェージュの課題を出している。入学後は、音楽の基礎であるソルフェージュにおいて、習熟度別に3クラス編成(基礎学力が不足するクラス、通常進度のクラス、優秀なクラス)を行い、きめ細かな指導をしている。

人間福祉学科と食物栄養学科では、入学手続き者の基礎学力を補い、学習意欲を促すための入学事前学習として、読書感想文と一般教養および専門分野についての課題を課し、教員がそれに対してコメントを入れて入学後に学生に返却している。また、人間福祉学科介護福祉専攻では「介護福祉特別演習」を開設し、介護福祉士資格取得に向け、学力向上を図っている。食物栄養学科では、「食物栄養学演習」「栄養士実力養成演習」「食物栄養特別演習」等を開設し、地域の食育や栄養指導の実践力の向上や栄養士としての学力向上、管理栄養士資格受験に向けた基礎学力を図っている。

また、国家資格取得の支援として、人間福祉学科介護福祉専攻では「介護福祉士国家試験」の合格に向けて、食物栄養学科では「栄養士実力認定試験」に向けて、それぞれ2年次の前期から本試験受験前まで、別途模擬試験を実施し、学力の不足している学生に対して学修支援を行っている。

人間福祉学科と食物栄養学科では、「社会福祉士」「介護福祉士」「栄養士」資格取得のために、それぞれ校外実習が課されている。その総まとめとして、社会福祉専攻では「ソーシャルワーク実習集録」、介護福祉専攻では「事例研究集録」を、そして、食物栄養学科では「郊外実習報告集録」を作成している。そのために、授業外でも個別の指導・支援を行っている。

他方、優秀な学生に対しては、ダイヤモンド奨学金制度で支援を行っている。ダイヤモンド奨学金は、1年次で優秀な成績をあげた学生に対して2年次の授業料を全額または半額給付する制度である。また、音楽科では特に優秀な学生に対しては、学内外の演奏会出演を推薦し経験を積むことで、学習成果の一層の向上を促している。

さらに、4年制大学への3年次編入や留学支援も行っている。

一方、ボランティア活動や論文優秀者など、功績のあった学生に対して学科長表彰制度を設け、学位授与式後に開催されるクラスアワーで表彰を行っている。

本学では、音楽・福祉・栄養に関する日頃の学習成果をさらに高め、幅広い視野と見識を深めることを目的として、海外・国内研修旅行を実施している。